

えんぴつがくれるやさしい時間

私は、えんぴつが大好きです。家で仕事をする時は、わざわざえんぴつを使うことがあります。木の手触り、黒鉛のにおい。えんぴつは、ふとやさしい気持ちにさせてくれたりします。

考えごとがうまくまとまらない時も、紙にえんぴつでざっと書き出してみる。AとBと、どちらを選ぼうか……。何かに悩んだ時は、とりあえずえんぴつを削ってみる。ふっとたちのぼる木の香りに、ふとアイデアがぼろりとこぼれ落ちてきたりして。

ところで、えんぴつ1本の芯を使い切ると、どのくらい長さの線が引けると思えますか？なんと！約50キロメートルの線が引けるのです。マラソンよりも長距離。あんなに細くて手のひらで包める大きさなのに。

とはいえ、小さくなったえんぴつを使い切るのはなかなか大変。そんな時は、えんぴつのお尻とお尻をくっつけてゼロハンテープで留めます。無駄なく使い切るにはこの方法がおすすめです。少しずつ削りながら、大事に大事に使う

えんぴつで「ぼんやりタイム」を！

とき、自分自身も大事にできる気がするので。

地球にやさしい木からの贈り物

えんぴつは、使うときだけでなく、使い終わった後もスグレモノです。削りカスを埋めたり焼いたりしても、有機物質がでないし、自然素材なので土中の微生物などに分解され、土に戻ります。

木は伐つても、また苗木を植えれば育つ「再生可能な資源」。地球の大切な資源を使い果たさないように伐つたら植える。

植えたら手入れをして育てる。育ったら伐つて使う。この繰り返しで、いつまでもいつまでも、木を使い続けることができます。

そんな木を使って、えんぴつは作られているのです。このえんぴつは、どんな木からできていますのだろうか？

そんなふうに思いを馳せてみるのも楽しいもの。ときには、えんぴつでやさしい時間を取り戻してみませんか？

イラスト●福々ちえ

えだひろ じゅんこ●環境ジャーナリスト、翻訳家。東京大学大学院修士課程修了。(有)イーズ代表 (<http://www.es-inc.jp/>)、(有)チェンジ・エージェンツ会長、NGOジャパン・フォー・サステナビリティ (JFS) 共同代表。東京大学人工物工学研究センター客員研究員、環境ビジネスウィメン懇談会メンバーなどを務めるほか、執筆、講演、翻訳などを通して環境問題に取り組んでいる。著書に『地球のなおり方』『地球とわたしをゆるめる暮らし』、訳書に『不都合な真実』『私たちの選択』などがある。